

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

大分県 豊後大野市

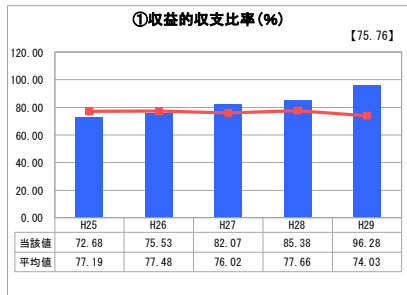
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	28.69	3,140	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
36,824	603.14	61.05
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
10,458	28.08	372.44

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



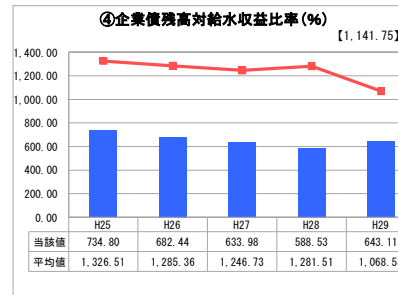
「単年度の収支」



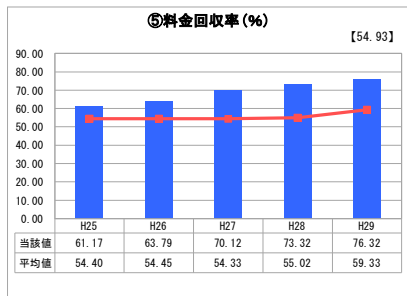
「累積欠損」



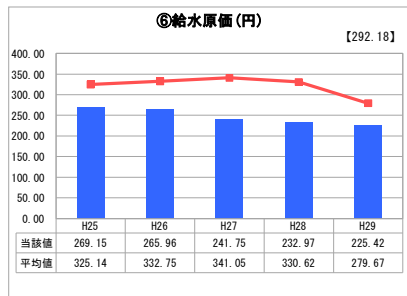
「支払能力」



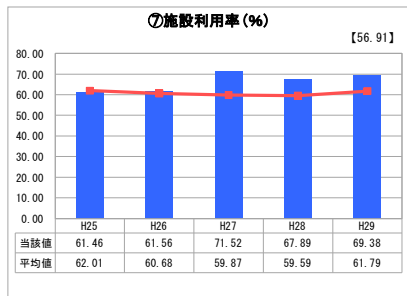
「債務残高」



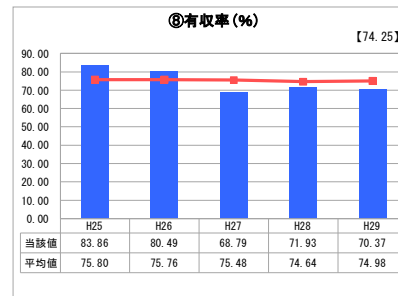
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

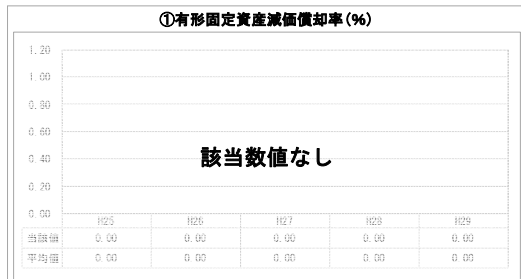


「施設の効率性」

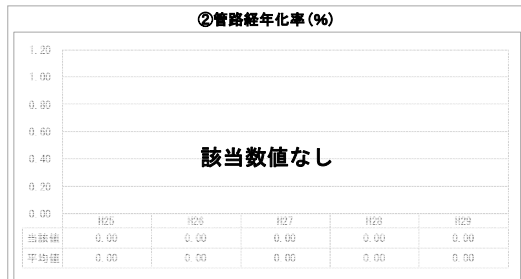


「供給した配水量の効率性」

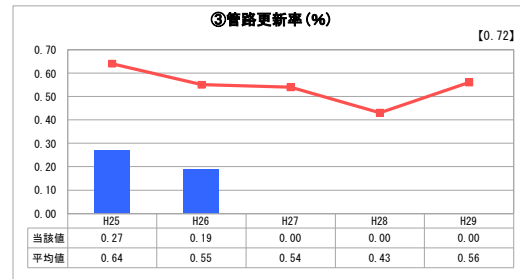
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①『経営収支比率』・・・経営費用が経営収益でどの程度賄えているかを示す指標。全国平均、類似団体平均を上回っており良好ではありますが、今後とも経費の節減に努める必要があります。

④『企業債残高対給水収益比率』・・・給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標。良好な状態にあるといえます。

⑤『料金回収率』・・・給水に係る費用がどの程度給水収益で賄えているかを表した指標。改善の傾向にあります。今後さらに経費の節減に努める必要があります。

⑥『給水原価』・・・有収水量1m<sup>3</sup>あたりについてどれだけ費用がかかっているかを表す指標。他都市と比べて低くなっており、今後も効率的な経営を継続していく必要があります。

⑦『施設利用率』・・・配水能力に対する配水量の割合で、施設の利用状況を判断する指標。人口減少に伴い徐々に減少傾向であったが、漏水等の影響で近年と比べて高い値となっている。

⑧『有収率』・・・施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標。平年値と比べると低くなっている。『施設利用率』と同様の理由が考えられます。今後も漏水調査を定期的に行い、平成30年度に策定する施設更新計画に基づく老朽管路の更新を行い、有収率向上に努めます。

### 2. 老朽化の状況について

③『管路更新率』・・・当該年度に更新した管路延長の割合を示す指標。管路の更新を行っていないため、数値には反映されていないが、耐用年数を超えている管路もあることから、計画的な更新が必要となっている。平成30年度に今後10年間の施設更新計画を策定します。

## 全体総括

経営状況は、給水収益以外の一般会計からの繰入金に依存していることから、料金回収率の向上対策と費用削減を継続的に行う必要がある。また、施設・管路の老朽化に伴う更新投資も考えられることから、引き続き改善点の分析検討を行い、経営改善に向けた取組が必要です。

今後は水道事業への統合を予定しており、安定的な財務基盤を構築し、徹底したコスト削減を行い、効率的な運営管理に取り組みます。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。